

質 問 回 答 書

2023 年 10 月 30 日

「(案件名) トルコ国鉄道の防災機能強化にかかる情報収集・確認調査(QCBS-ランプサム型)」
(公示日:2023 年 10 月 11 日/調達管理番号:23a00649)について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	第2章 第4条(1) パイロット実証実験について	パイロット実証実験実施にあたり、トルコ国鉄とシステム設置個所や使用方法をよく協議したうえで実施とあるが、本プロポーザルでの提案内容・見積範囲を基本として協議するという前提でよいか。	ご理解のとおり、本プロポーザルでの提案内容・見積範囲を基本として協議いただくことを想定しています。
2	同 第4条(2) 支援委員会について	委員会の規模(委員の数)について、貴機構の想定があればご教示願いたい。	3~5 名程度を想定しています。
3	同 第5条(2) 鉄道防災に関する基準類の調査	鉄道防災に関する基準類の調査対象は、高速鉄道を含まない在来鉄道線区と理解してよいか。(高速鉄道システムの鉄道防災は異なる可能性が高いため)	高速鉄道の基準類も調査対象です。
4	第3章 4.(3) 別見積について	パイロット実証実験において、落石検知システム又は地盤傾斜計以外の警報システムの構築を追加して別提案する場合は、別見積でよいか。	弊機構は、落石検知システム又は地盤傾斜計を想定していますが、その他の選択肢を排除するものではありません。有効と判断されるパイロット実証実験の内容をプロポーザルにてご提案いただきたいと考えております。別紙「プロポーザルにて特に具体的な提案を求める事項」に記載のとおり、上限額を超える場合は、別提案・別見積とさせていただきます。そうでない場合には本見積に含めて提出いただくようお願いいたします。
以上、10/23 HP 掲載済			

5	第2章4条(1)パイロット実証実験について	実証実験の期間は提案者で設定して良いか。あるいは調査期間をもって終了という扱いで良いか。	トルコ国鉄が実証実験で構築する警報システムを引き継ぐことが可能な場合は、引き渡しを想定しています。引き継ぐことができない場合には、警報システムの撤去を含めて、調査期間内に終了する必要があります。
6	第2章4条(2)支援委員会について	支援委員会の委員は国内での対面会議(オンライン参加者も含む)に参加して頂くものとし、トルコ側とはオンラインで繋いで会議をするという理解で良いか。	ご理解のとおり、委員の方には国内で対面またはオンラインで会議にご参加いただき、トルコ側とはオンラインで繋ぐ形式を想定しています。
7	第2章4条(3)別見積について	落石検知システム又は地盤傾斜計のパイロット実証実験に加え、現地の要望等を踏まえ別提案を盛り込むことを検討しております。 上述の提案を、上限額を超えず本見積りに含めた場合、「価格点」において不利となりますが、「技術点」としてご配慮いただけるのでしょうか？ もしくは、追加の別提案については、上限額を超えない場合においても、別見積りとすることは認められますでしょうか？	ご提案いただく実証実験が、上限額の範囲内に収まる場合は、その内容は技術評価の対象となります。なお、上限額を超えないものの、別見積りを新たに立てることはできません。

以上